

道ばたに見る春の草たち

市街地の生きもの 広瀬重夫

タデ科のなかま



写真 87, ギシギシ
5月, 垂水区



写真 88, スイバ
4月, 灘区

■ ギシギシ

道ばたから水辺近くまで、市街地でもよく見かける、力強い根をした多年草で、根ざわからたくさんの葉をつけて冬を越します。

これとよく似たものにナガバギシギシとかエゾノギシギシなど、いずれもヨーロッパ原産のギシギシのなかまが神戸の町にも見られます。それらのちがいは大人でもむずかしいことがあります。花の後の実を見て区別にチャレンジしてください。

■ スイバ

茎や葉をかじると酸っぱいので、スイスイとかスカンボなどと呼ばれています。めばなをつけ実を結ぶ株と、花は咲いても種をつけないお花だけの株の別々になっています（雌雄異株（しゅういしゅ））。

これとよく似たものに、ヨーロッパ原産のヒメスイバやアレチギシギシも市街地で見かけます。葉の柄や形、茎へのつながり方に注意しますとたやすく区別できます。



※ギシギシのなかまの上の三つはよく似ているうえに、雑種のできることもあり、まぎらわしいですが、花の後、120度ずつ離れた3枚の翼（ひれのようなもの）のふちに注意して区別します。

果実の翼は広く
ふちに低いわずかの
きょ歯がある

ギシギシ

果実の翼には
ほとんどきょ歯が
ない

ナガバギシギシ

ふちにとげ状の
ものがある

エソノギシギシ



写真89、ヒメスイバの若苗
3月、中央区



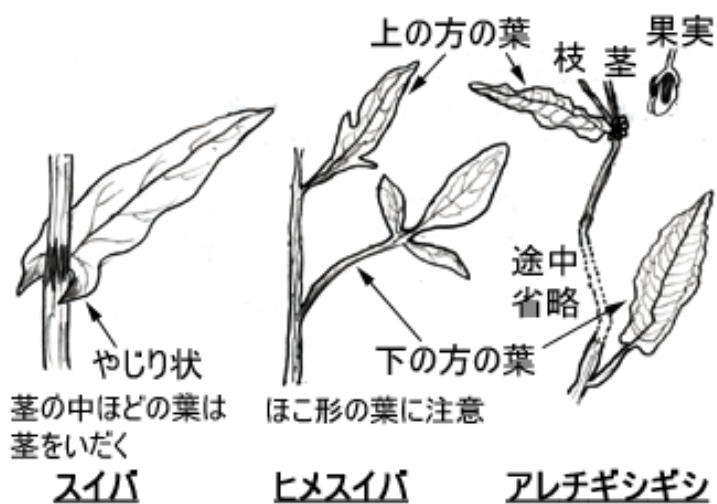
写真90、アレチギシギシ
5月、垂水区

■ヒメスイバ

根ぎわからほこ形の葉をたくさん出して冬を越す、多年草です。

■アレチギシギシ

ギシギシという名がくっついていますが、先ほどのギシギシの三つとは、高さや葉の大きさ、枝のつけかた、色などがちがいます。それよりは、スイバとのちがいに注意してください。



以上、ギシギシをはじめ、このアレチギシギシまでの6種はタデ科のなかまに入り、秋に紹介するイヌタデなどをふくめると、神戸では36種類が知られています。

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)